

# 旭中央病院・宮本さんを職場に戻し



# 地域医療を再生させる会 ニュース

## 延べ20名の仲間が参加

### 午前は県要請

7月17日(月)、「旭中央病院・宮本さんを職場に戻し、地域医療を再生させる会」は、第1回の旭行動に取り組みました。

午前中は、千葉県自治体病院対策室に対し、結成の報告と挨拶を行いました。

松本会長は「首切り事件であり、宮本さんを職場に戻すまで、最後までたたかう」と会の立場を明確にしました。

対応した小原室長は「県と市は同格で、県には調査や指導の権限はない。あくまで、旭市の病院だ」

「県と市は同格で、県には調査や指導の権限はない。あくまで、旭市の病院だ」

### 旭中央病院にも挨拶

午後からは、旭中央病院に対し、結成の挨拶と要請を行いました。

ここでも松本会長は「解雇を撤回するまでたたかう」ことを明確にしたうえで、「こんな理由で分限免職(解雇)などという例は無い。事務部長も、県の職員だからわかっているはず」

## 第1回旭行動で地域・職員に宣伝と対話

### 「病院はどうなってるんだ」

と責任逃れの姿勢を示しました。会は「病院事務部長に人を送るなど、人も金も流して『県に権限も責任もない』という言い分は住民の誰も納得しない。千葉県には、キッチリと責任を取ってもらう」と告げ終了しました。

と強調し、長平自治労連委員長からも「こんな解雇の仕方は、県内の公務員職場でも例がない」と前代未聞のデタラメで乱暴な解雇であり、直ちに撤回するよう求めました。

対応した菅谷事務部長は「今日の内容は院長にも伝える」との立場を示しました。最後に会は、「次回は、吉田病院長と会わせるよう」強く求めました。



### 「病院はどうなってるんだ」

病院への挨拶・要請後は、宣伝カー、患者さんへのピラまき、地域住宅へのピラまき部隊に分かれ、宣伝行動を展開しました。

宣伝カーに駆け寄ってきて、或いは喫茶店から店員さんが出てきて「ピラを下さい」と求めてくるなど、大きな反響がありました。

宣伝カーのスポット演説箇所には、必ず立ち止まって聞き入る地元の人があり、ピラを撒いている仲間と対話も

広がり、「旭中央病院の医師の質が落ちたから、亀田病院に替えた」「首切り?そりゃとんでもない!頑張れ!」「仲間内では、最近病院がおかしくなっていると話になってる」「おおいに宣伝カー使って、宣伝してほしい」等の声が寄せられました。

病院玄関付近では、積極的にピラを受け取りにくる患者さんも多く、「宮本さんを職場に戻し、民主化して地域要求に応える病院に」の訴えが、共感を

得

## 次回の「旭行動」は

# 8月3日 (金)

## 13:30旭中央病院正面玄関集合 御参加をお願いします!

ながら大きく広がりました。  
SSTと建交  
労の仲間は、炎天下の下汗だくになりながらの奮闘で、病院付近の住宅にピラ入れを完了し、病院包囲網ができてきました。  
退勤職員にもピラ手渡し  
17時過ぎからは、手分けをして退勤職員にピラを手渡ししました。受け取りも良く、対話にもなりました。総務人事部職員が見回りに来た際には、「彼が見ているので受け取れない」と囁いて、ピラを受け取らずに帰る職員もあり、旭中央病院の異常で抑圧的な職員管理体制が垣間見えた瞬間でした。

